

原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2022/08/29号

マーケットエッジ株式会社 小菅努



【現状確認】



(出所) Refinitivよりマーケットエッジ作成

減産議論を警戒、一時95ドル突破

NY原油先物相場は、1バレル=90ドル台前半から中盤で底固く推移した。サウジアラビアのアブドルアジズ・エネルギー相が、石油輸出国機構（OPEC）プラスが9月にも減産に踏み切る可能性を示唆したことで、一時95.76ドルまで値上がりしている。他産油国からも減産対応に理解を示す声明が相次いで出されている。米原油在庫の取り崩しが進んだこともポジティブ。ただ、イラン核協議の進展観測が上値を抑えた。

サウジアラビアのアブドルアジズ・エネルギー相は、先物市場と現物市場との乖離が大きくなっているとして、先物市場の価格がファンダメンタルズを反映していないとの見方を示した。高ボラティリティと流動性低下によって、市場機能が果たせていないとの見方になる。このため、OPECプラスが減産を含めた対応を講じる可能性を指摘している。こうしたサウジアラビアの動きに対して、イラク、アルジェリア、UAE、スーダンなどが支持を表明していることで、原油相場の安値限界が意識された。

米エネルギー情報局（EIA）の米石油在庫（8月19日時点）は、原油が前週比328万バレル減、ガソリンが3万バレル減、石油精製品が66万バレル減となった。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

【展望】

OPECプラスの減産警戒で底固い、イラン核協議には要注意

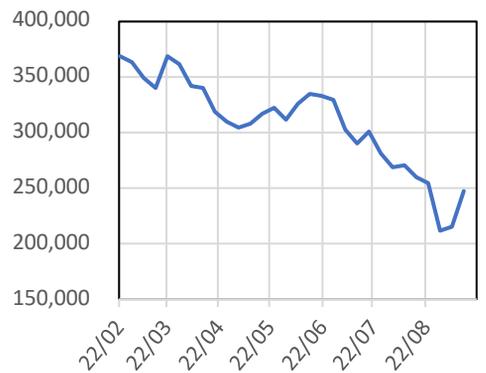
需要不安と供給不安が交錯して90ドル水準で方向性を欠く展開が続いていたが、OPECプラスが減産に踏み切る可能性が浮上したことで、地合が好転している。複数のOPEC筋が減産は差し迫ったテーマではないとしているが、更に原油安が進行する、もしくはイラン核合意の立て直しが実現してイラン産原油の供給増加が警戒されるような事態になると、OPECプラスはこれまでの増産政策から減産政策に転換する可能性が高まっている。改めて安値を売り込むことが難しくなっており、95ドルの節目を完全に上抜くと、安値修正の形で一気に100ドルを試すリスクも想定しておく必要がある。

また、サウジアラビアが先物価格がファンダメンタルズを反映していないと批判したことで、需給バランスの指標となる在庫統計に対する関心が高まっている。米原油在庫は2週連続で減少しており、更に在庫の取り崩しがみられると、買い安心感が強まり易くなる。

一方、イラン核協議は詰めめの協議が行われている。欧州連合（EU）の最終文書に対して8月15日にイランが回答を行っていたが、それに対して米国が返答するなど、協議が加速している。ホワイトハウスは依然として両国の隔たりは大きいとしているが、仮にイラン核合意の立て直しが実現すると、短時間で日量100万バレル規模のイラン産原油が市場に追加供給される可能性もあるだけに、協議の進展報告があると原油相場の上値は圧迫され易くなる。

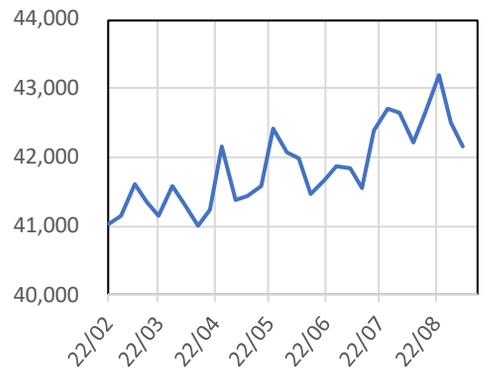
月末・月初とあって米中などで注目度の高い経済指標が発表されるため、改めて景気減速懸念を織り込む動きが活発化すると、90ドル水準に向けて下振れリスクが高まる可能性は残されている。

(枚) NY原油先物 大口投機筋ネット建玉



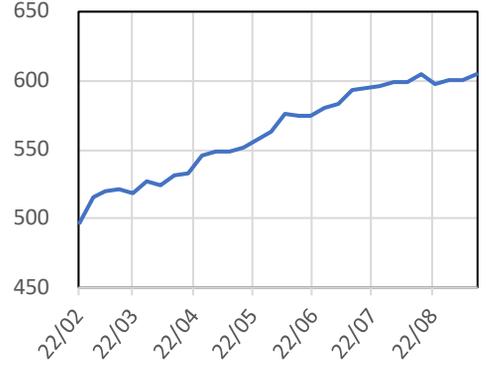
(出所) CFTCよりマーケットエッジ作成

(万バレル) 米原油在庫



(出所) EIAよりマーケットエッジ作成

(基) 米石油リグ稼働数



(出所) Baker Hughesよりマーケットエッジ作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所がマーケットエッジ株式会社から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、マーケットエッジ株式会社に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、マーケットエッジ株式会社（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 マーケットエッジ株式会社（Marketedge Co., Ltd.）

【所在地】 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-18-1（古川ビル4F）

【URL】 <https://www.marketedge.co.jp/>

【電話】 TEL : 03-6661-9498 【E-mail】 info@marketedge.co.jp

小菅努（こすげ・つとむ）プロフィール

1976年千葉県生まれ。筑波大学社会学類卒。商品先物会社の営業本部、ニューヨーク事務所駐在、調査部門責任者を経て、2016年にマーケットエッジ株式会社を設立、代表に就任。金融機関、商社、事業法人、メディア向けのレポート配信、講演、執筆などを行う。

最新情報は
ツイッターで

